



優勝ロボットを解剖しよう

第17回 ROBO-ONE スーパーディガーII

いわぶち ひろのち
岩淵 宏信 (ひろのち)

はじめに

いつの日か ROBO-ONE で優勝することが、私の夢であり目標であった。ロボットキットからスタートし、少しずつ改造しながら、大会に出場して経験を積んだ。大会で敗北する度に自分のロボットに何が足りなかったのか、課題を洗い出し、その課題をどうやったら克服できるか考えた。方針を定め、対策を行い、次の大会に出場した。この繰り返しが、実に楽しかった。私は、夢中になってロボット活動を続けた。そして、2010年3月21日、第17回 ROBO-ONE 大会で、とうとう夢が現実になったのである。

第17回大会で優勝を勝ち取るまでに



写真1 第17回 ROBO-ONE。優勝のスーパーディガーII。



写真2 第17回 ROBO-ONE。決勝前、スーパーディガーIIを高く掲げるひろのち。

は、過去に4回のチャレンジを行っていた。ROBO-ONE への挑戦は、第11回大会から始まった。初めて参加した第11回大会では、予選を突破するものの初戦で敗退した。その半年後の第12回大会では、軽量級で3位に食い込んだ。しかし、次の第13回大会では4点差で惜しくも予選落ち。第14回大会は、決勝トーナメント初戦で敗退し、優勝など程遠い状況であった。第15回大会、第16回大会は、都合で参加を見送っていた。二足歩行ロボットを作り始めたころから、第17回大会で優勝するまでの道のりを振り返ってみることにする。

今から6年前の2004年の夏、ROBO-ONE の父である森永英一郎氏のホームページを見たことがきっかけだった。どうしてもロボットを作りたいという衝動にかられ、まずは、ロボットについて、インターネットや本誌で徹底的に調べた。当時は、ROBO-ONE で活躍できるレベルのロボットを作れたかったが、最初から高額な投資が必要となるため諦めざるを得なかった。妻に30万円でロボットを作りたいと交渉をもちかけたが許可が下りなかったのだ。そんな時、妻が、福岡市の情報誌で「大人のための二足歩行ロボット組立講習会」の募集記事を見つけてきた。結局この講習会の第一回目に参加し、ロボットキット(当時発売されて間もないKHR-1、12万円)からスタートすることになった。

ゴールドディガー

(2004年10月～2006年6月)

KHR-1 は、二足歩行ロボットブームの火付け役となった近藤科学の人気キットで、非常に良くできていた。オリジナリティを出したいと思っていたので、KHR-1 のノーマル状態から組み直して、足のサーボ構成を変更した。軸構成は、

KHR-1 から頭部のサーボモーターを外した KRS-784 の16軸とした。外した頭部のサーボモーターの代わりに携帯電話の充電器を載せた。ロボット全体のカラーは金色で統一し、名前は、一獲千金を狙う意味でゴールドディガーに決めた。そして、2006年3月26日のロボスクエア主催による KHR バトル大会でデビューを果たした。その夜、数名の参加者と意気投合し、九州ロボット練習会(会長:水井氏)が発足した。



写真3 初めての九州ロボット練習会での集合写真(左から2番目がゴールドディガー)。



写真4 スプリント大会の様子。ゴールドディガーは静歩行だった。



写真5 バトル大会の様子。ゴールドディガー(右)は、ワイルダー01と対戦。